

探してみよう、豊島区の水辺

「水辺」と聞いて、どんな風景を思い出しますか？

豊島区には神田川の他に谷端川・水窪川・弦巻川と千川上水がありましたが、都市化に伴い身近に感じられる水辺が少なくなっていました。

水辺は人にとって生活に必要な水や癒しを与えてくれる場所です。今回は区内で見つけた、水と親しめる場所や水の大切さを教えてくれる物語をご紹介します。



水が奏でる音色～豊島区庁舎「豊島の森」から～

平成27年5月7日に開庁した豊島区の庁舎は、最新の環境技術が導入され、その1つとして雨水を利用した水循環システムが整備されています。

庁舎に降り注いだ水の巡りをたどりながら、水が奏でる音色を探してみましよう。

庁舎のエレベーターを10階で降りると、まるでどこかに迷い込んだような緑が目飛び込んできます。ここが水の巡りのスタートとなる屋上庭園「豊島の森」。かつての豊島区の自然環境を再現した場所です。

歩いてみると小川を模した水路や、観察用の水槽、そしてビオトープの池（表紙写真）があります。ここでは、ドジョウや区内の小学生が放流したクロメダカなど様々な水生生物が暮らしています。小川は更に外階段の水管をたどって8階→6階→4階のグリーンテラスへと流れています。グリーンテラス各階では、豊島区の地形構造に合わせた自然環境を楽しめます。小川にはせせらぎや落水など音が聞こえる工夫がほどこされ、都心とは思えない雰囲気です。

そして、4階まで来た水は地下へと流れ、ろ過装置を経て、再び10階へと循環しています。ビオトープで暮らすメダカたちは雨で増水した時に思いがけず流されてしまい、地下まで旅をすることがあるため、地下に受け皿を用意。係の人が毎朝救出して10階の住処まで連れて行くのだから。水を感じながら憩える場、それが屋上庭園「豊島の森」です。

■グリーンテラスの小川
小川には段差や石が設置され、川のせせらぎ音を出しています。実際に手を入れて水の感触を楽しむこともできます。（4階、6階）



■パイプの工夫
各フロアへつながる階段の途中では、滝が落ちるような音が！水音を楽しむようにパイプがラッパ状になっています。



■トイレの水
庭園の小川の水の他にも庁内のトイレで使っている水の約30%に雨水を活用しています！



■観察用の水槽
ドジョウやタナゴなどビオトープにいる魚を間近に観察できます。

■貯水槽への入り口
地下2階にはストレーナー（濾し器）があり、流れてきたメダカたちはここで救出されます！



●連絡先：豊島区庁舎建設室 TEL03-3981-1111（代表）
開園時間：4月～9月 午前9:00～午後5:00
10月～3月 午前9:00～午後4:00
※年末年始・祭日及び雨天・強風時は閉園

■落水
パイプから流れ落ちた水が迫力のある音を出すよう、落差が設けられています（各フロアの階段付近）